

令和6年度 大阪府立堺聴覚支援学校 第2回 学校運営協議会

日 時 ; 令和6年12月3日(火) 9:45～12:00

場 所 ; 大阪府立堺聴覚支援学校 会議室

出席者 ; 校長 甲斐 俊夫

【協議会委員】 井坂 行男 (大阪教育大学教育学部 教授)
山下 真由美 (堺市立百舌鳥支援学校 校長)
早川 良次 (シャープ特選工業株式会社 社長)
廣瀬 宜礼 (大阪河崎リハビリテーション大学 講師)
田中 與志男 (堺ろう学校同窓会 会長)
中原 啓子 (本校PTA 会長)
【事務局】 教頭・事務長・首席・幼稚部主事・小学部主事・中学部主事
【傍聴者】 有(1名)

1 開会

2 学校長より挨拶

3 校内見学

・ 中学部 → 小学部 → 幼稚部

4 協議

(1) 創立70周年記念行事の取り組み紹介

- ① 学校ホームページのリニューアル
- ② 創立70周年記念総合体育祭と題し、70周年にちなんだプログラムを取り入れた。
- ③ 創立70周年記念文化祭と題し、第一部で記念式典、第二部で舞台発表(文化祭)
- ④ 創立70周年記念品はトートバッグ。本校の校章に子どもたちから募集したデザインを入れた。
- ⑤ 創立70周年記念誌 60周年からの10年間の歩みと、日本で初めて歯科技工科ができた学校であるため、今夏に当時の関係者に集まっていたき座談会を実施し、その様子を特別掲載した。
- ⑥ 創立70周年記念横断幕 全学部の子どもの手形を押してデザインをしたものを作成
記念式典時に会場の体育館に掲示しました。

【委員からの主な感想や意見】

- ・ 子どもにとって、特別な1年になる。様々な取組みを通して、学部の垣根を越えた交流があること、みんなが一緒に作品作りをするということは、保護者としてはとても嬉しいことです。
- ・ 同窓会長として、同窓会の皆さんからのご意見も参考にして、式典で挨拶をしました。

(2) 令和6年度 学校経営計画(進捗状況)について(校長より説明)

【説明内容と委員からの主な意見・質問及びその回答】

① 地域に開かれた安心・安全な学校づくりの推進

- ・ホームページ更新目標は年間100回以上。現在84回更新。児童生徒による情報発信は年間8回目標で現在5回。校長ブログをスタートし、修学旅行や宿泊学習、日々の活動の様子など現在100回記事をあげている。

→ 学校ホームページは学校や教育機関だけでなく、企業や地域の方々からも注目されている、ひいては、安全で健全な学校運営に繋がるので良いと思います。

② 確かな学力の育成

- ・小中学部の子どもたちの居住地校交流を進め、小学部は19名、中学部は7名が交流。幼稚部も交流を開始し、現在3名が居住地の幼・保育園と交流を進めている。

→ 幼児期、地域に友だちがいるのか、どれだけ子どもが地域に根付いているのかというのが大切なので、そういう状態把握を調査するのも大切なことだと思います。

→ 受け入れ体制や知識が十分でない場合でもノーマライゼーションの考え方で、地域で学ぶように促すという動きもある。うまくいっている所もあるが一部ではないだろうか。実際は難しいことも多いのではないかな。

→ 聴覚支援学校は専門性をもって子どものことばや学力を伸ばすという自負がある。反対に仲間意識をもってみんなで助け合っていこうというというのが地域の学校のモチあじ。その辺りのギャップをどう埋めていくのかを考えていく必要があると思います。

③ 支援教育の専門性の向上

- ・年2回、専門性向上の研修を行っている。夏季休業中、金沢大学の武居教授による研修を実施。
- ・各学部で専門性向上に関わる研修を実施。学部を超えて参加することもできる。

④ 聴覚障がい教育のセンター的機能の充実

- ・関係機関や病院に伺い、聴覚障がいとは何かという基本的な話や、本校の取組みの紹介など難聴児の理解啓発を進めている。目標8回は超えたが今後も進めていく予定。校長も同行し、医師、教授、言語聴覚士との連携を深めている。

- ・保健センターや保健所に訪問されているが、早期の乳幼児の紹介情報など増加傾向ですか？

→ 地域に行かせていただき、聴覚障がいは何に困り、どんな支援が必要かということ話をしている。大阪南部にどのような子どもたちがいるかを把握する機会であり、定期的な巡回の意味は大きいと感じている。

⑤ 校務の効率化による働き方改革の推進

- ・教員の負担感も大きく、ワークシェアの観点で業務を見直していく。分掌部長に業務内容と負担度（重要度）をヒアリングし、安全衛生委員会で働き方に関するアンケートも実施する。

→ 業務を洗い出し、関係者でディスカッション協議すると、きっと統合できるところがいくつか出てくる。それを丁寧に進めていくと効率化、業務の統合、改善ができると思います。

(3) 学校教育自己診断について

- ・質問数の精選や質問内容を見直した。肯定的評価が100%近い項目は割愛した。

→ この見直しはどのような組織でどのように見直しが行われたのでしょうか。

→ 担当教員と校長で骨子を作り、首席、部主事、管理職等で構成する企画会で確認し見直した。

- 今年はスマホを使って、アンケートの回答ができたので、空いた時間に返事をする事ができてありがたいと思いました。
- 子どもへのアンケートを家でするのか、学校でするのか、どうなのだろうと思う面がありました。親が説明をしながら書くことはできるが、子どもが自分の力だけで質問の意味を理解して考えて答えられるように改善してもらえたらありがたい。

(4) 授業見学のご意見・ご感想

- ・手話に合わせて口話で授業をしている様子を見学しました。また、人工内耳のお子さんが話をしながら勉強している様子を見て、なるほどと思いました。
- ・子ども、保護者、教職員が、学校の外へ出ていろいろな経験をして、学習を進めて行かれるということを随所で聞くことができ良かったです。子どもの成長に繋がると感じました。
- ・ずいぶん昔から、授業見学させていただいてきましたが、子どもの数が減ってさみしいというのが率直な気持ちです。ろう教育、学校教育をどう維持していくかのご苦労がわかりました。
- ・ICTを推進されていると感じました。ASD（自閉スペクトラム症）のお子さんは視覚優位なので、聴覚支援学校以外の支援学校でも、モニター等が各教室にあればいいなと思いました。
- ・タブレット端末を使って授業をされていた。今日授業で見た使い方はすごいと感じました。
- ・授業見学で気になったことは、生徒が答えるときに、他の生徒がちゃんと見ているのか。他の生徒の手話を見て、授業内で交流ができているのかは、まだまだな様に感じました。
- ・先生方には、幼稚部時代は特に親子の繋がりへのサポートをしていただきたいと思います。
- ・先生方が手話を上手に使いながら口話もして、生き生きと笑顔で授業されていた。言い過ぎかもしれないが、自信に満ちた表情で授業されていたのがとても印象に残りました。

5 事務局より連絡

次回は令和7年2月予定

6 校長挨拶

7 閉会の挨拶